3 ー 1. 検討のための展開案（一覧）

現状のまま保存	普及	交流	その他
展示	利用者サービス	管理部門	保存・修理復旧しない部分

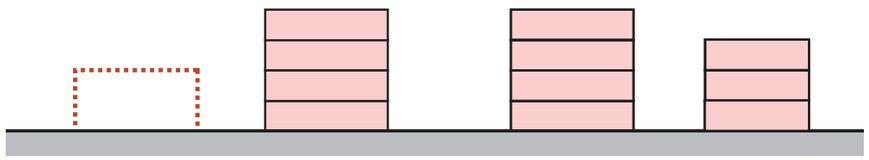
Ⅰ案　全体を現状保存（内部公開しない）＋記念館相当施設を新規整備

＜特徴＞　□震災遺構の内部に入ることができない。
□南校舎、北校舎、総合実習棟を現状のまま保存する。
□敷地内に新施設を整備する。

＜コスト＞　□整備費用（市負担分）が一番安い。（保存）　※新施設の整備費用は別途。
※4 案比較　□維持管理費用がⅢ案と同程度であるが、若干安い。（Ⅰ＜Ⅲ−ｂ＜Ⅲ−a）

＜法令対応＞ □対応の困難度が一番低い。
※ただし、新施設についての建築基準法上の扱われ方によって困難の度合いが変わる。

＜課題等＞　□遺構は外部からの見学のみ。



□新施設

□南校舎
4 階：現状のまま保存
3 階：現状のまま保存
2 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存

□北校舎
4 階：現状のまま保存
3 階：現状のまま保存
2 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存

□総合実習棟
3 階：現状のまま保存
2 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存

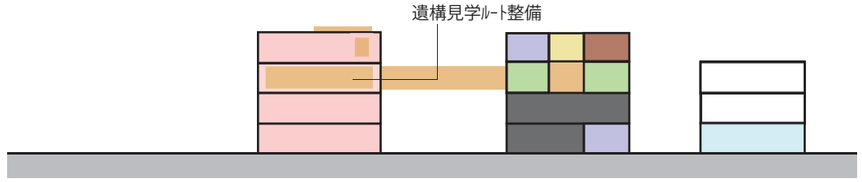
Ⅱ案　南校舎に見学ﾙｰﾄを整備＋北校舎上層階を記念館として活用＋総合実習棟 1F を活用（内部公開する）

＜特徴＞　□震災遺構の内部に入ることができる。（南校舎 3 階、4 階の一部及び屋上に北校舎と回遊する見学ルート整備）
□北校舎 3 階、4 階を展示室、普及等の場として活用し、総合実習棟をまちづくりの場として活用する。

＜コスト＞　□整備費用（市負担分）が一番高い。（保存・活用）
※4 案比較　□維持管理費用が一番高い。

＜法令対応＞ □対応の困難度が最も高い。

＜課題等＞　□南校舎の遺構見学ルートの整備にイニシャルコストがかかる。
□スケルトン化する部分では、雨の吹き込み等への対策が必要。



□南校舎
4 階：公開活用（一部）
3 階：公開活用
2 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存

□北校舎
4 階：公開活用
3 階：公開活用
2 階：ｽｹﾙﾄﾝ化
1 階：ｽｹﾙﾄﾝ化

□総合実習棟
3 階：閉鎖管理
2 階：閉鎖管理
1 階：公開活用

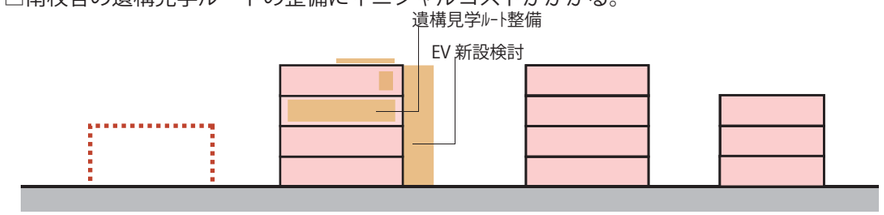
Ⅲ−a 案　全体を現状保存（内部公開する）＋記念館相当施設を新規整備

＜特徴＞　□震災遺構の内部に入ることができる。（南校舎 3 階、4 階の一部及び屋上に見学ルート整備）
□南校舎、北校舎、総合実習棟を現状のまま保存する。
□敷地内に新施設を整備する。

＜コスト＞　□整備費用が二番目に高い。（保存）　※新施設の整備費用は別途。
※4 案比較　□維持管理費用がⅠ案、Ⅲ−ｂ案と同程度であるが、若干高い。（Ⅰ＜Ⅲ−ｂ＜Ⅲ−a）

＜法令対応＞ □対応の困難度は比較的低い。
※ただし、新施設についての建築基準法上の扱われ方によって困難の度合いが変わる。

＜課題等＞　□南校舎の遺構見学ルートの整備にイニシャルコストがかかる。



□新施設

□南校舎
4 階：公開活用（一部）
3 階：公開活用
2 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存

□北校舎
4 階：現状のまま保存
3 階：現状のまま保存
2 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存

□総合実習棟
3 階：現状のまま保存
2 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存

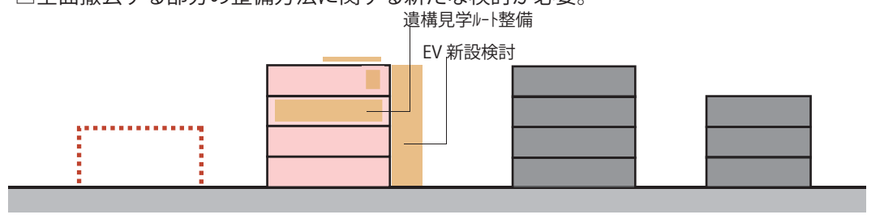
Ⅲ−ｂ 案　南校舎のみ現状保存（内部公開する）＋記念館相当施設を新規整備

＜特徴＞　□震災遺構の内部に入ることができる。（南校舎 3 階、4 階の一部及び屋上に見学ルート整備）
□北校舎、総合実習棟を全面撤去する。
□敷地内に新施設を整備する。

＜コスト＞　□整備費用（市負担分）が二番目に安い。（保存）　※新施設の整備費用、撤去費用は別途。
※4 案比較　□維持管理費用がⅠ案、Ⅲ−a 案と同程度であるが、Ⅲ−a 案より若干安い。（Ⅰ＜Ⅲ−ｂ＜Ⅲ−a）

＜法令対応＞ □対応の困難度は比較的低い。
※ただし、新施設についての建築基準法上の扱われ方によって困難の度合いが変わる。

＜課題等＞　□南校舎の遺構見学ルートの整備にイニシャルコストがかかる。
□全面撤去する部分の整備方法に関する新たな検討が必要。



□新施設

□南校舎
4 階：公開活用（一部）
3 階：公開活用
2 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存

□北校舎
4 階：撤去
3 階：撤去
2 階：撤去
1 階：撤去

□総合実習棟
3 階：撤去
2 階：撤去
1 階：撤去

３－２．検討のための展開案

Ⅰ案　**全体を現状保存（内部公開しない）　＋　記念館相当施設を新規整備**　　※現状保存対象：南校舎、北校舎、総合実習棟

整備

保存・公開エリア

【保存の考え方】

- 南校舎、北校舎、総合実習棟を現状保存する。
- 漂着物も一括して保存対象とする。
- 保存対象の校舎の開口部にネットをかけ、漂着物の飛散防止、鳥獣類の侵入防止を図る。
- 内部は非公開とする。
  →調査研究目的での立入も不可とする。

【公開の考え方】

- 内部の公開は行わない。
- 遺構をフェンス等で囲み、見学用接近ルートを整備の上、外観の見学を行う。
  →ガイド（案内人）に従い、ヘルメット着用で定められたルートを見学する。
  →北校舎ー総合実習棟間の渡り廊下等、地上から確認できる遺構ポイントを見学できるルートを設定する。

活用エリア（新規施設）

- 旧プロムナードの代替として、新規に活用のための施設を整備する。
  →復興予算対応規模は、延床面積約 1,100 ㎡。
- 主な施設利用イメージ
  →①団体［修学旅行、小・中・高校団体］、②少人数グループ［視察、観光］、③個人
  →主な滞在時間イメージ：館内（展示見学・ＷＳ等）15～60 分、遺構見学 45～60 分、休憩等 10～30 分　【70 分～2 時間 30 分】
- 想定する運営体制人員数
  →館長（1 名）　－総務・経理担当責任者（1 名）－総務・経理担当（１名）
  －企画担当責任者（1 名）－企画（展示・普及等）担当（3 名）　※企画担当は学芸員を必ず含むものとする
  －受付・案内担当（5 名）　※交代要員含む。パート。
  －語り部　※状況に応じて配置人員数調整、有償ボランティア
  ※繁忙状況により、事業企画支援担当、業務推進支援担当等を配置する（※アルバイト・パート）。
- 想定する事業活動及び必要諸室
  →当初想定の諸機能のうち、「展示」「普及」に注力し、防災・減災教育拠点としての機能性を高める。
  →展示は常設展示を基本とし、可変性、更新性を重視する。
  →現在、保管されている漂着物そのものを公開展示する（漂着物保管事業を展示する）。所有者が確認されたら返却を原則とする。
  →記憶を風化させないためのイベントを毎年実施し（校庭、周辺もフィールドとする）、話題性創出につなげる。
  →施設規模上、レストラン・カフェは（20～30 席程度）、ショップはコーナーでの展開とする（※テナントとする）。

	展示	教育・普及	利用者サービス	事務・管理
事業活動	【常設展示　※展示替え有】 ①気仙沼市航空写真（床面） ②「記憶預かり所」 -漂着物公開展示- ③「その時私は、あなたは」 -防災･減災･避難- ④「気仙沼と津波、そして 3.11」 ⑤「復興-海と生きる-」	①遺構ガイドツアー ②語り部による「語り伝え」 ③防災･減災講座､研修会 ④地震研究成果発表ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ ⑤「忘れない」特別イベント →被災地ネットワーク企画 →“海と生きる”気仙沼映画祭 →“避難の道”歩こう会　等	①団体受け入れ対応 ※100 名収容想定 ②飲食事業 ③物販事業 ④その他　等	①受付・券売・案内 ②事務管理 ③展示関連（企画･調整等） ④普及関連（企画･調整等） ⑤サービス関連（企画･調整等） ⑥搬出入・備品等管理　等
	調査・研究			地域連携
	＊震災に関連する情報収集・研究あるいは研究機関との連携 ＊情報発信のあり方等に関する研究　等			＊地域との連携活動の企画・調整　等
必要諸室	①～⑤： 展示室、前室　等 ［部門別面積：約 200 ㎡想定］	①～②：担当待機スペース ③～⑤：多目的スペース ＊研究支援オフィス ［部門別面積：約 300 ㎡想定］	①:無料休憩空間（団体収容想定） →約 100 ㎡/ベンチ設置 ②：レストラン・カフェ ③：ショップコーナー ④：トイレ、ロッカー　等 ［部門別面積：約 200 ㎡想定］	①：受付カウンター ②：事務室 ②～⑤：ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ（兼応接室） ⑥：搬出入ｴﾘｱ・倉庫等 ［部門別面積：約 150 ㎡想定］

備考

- 経年劣化への対応方針により、維持管理費が大きく異なる。
  a ：特に対応しない。
  b ：屋根の防水処理等、根本的なものについて定期的に対応。
  c ：被災時の姿を留められるよう、毎年継続的に対応。
- 開口部のネットの状態の管理、破損時の迅速なメンテナンスが必要。
- 夜間等の警戒（機械警備）の検討を要する。

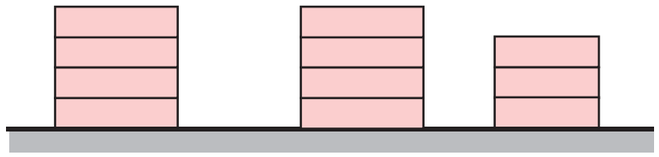
- 防災・減災教育施設として、研究に基づく展示、普及活動を展開するため、展示・普及担当は学芸員であることが望ましい。
- 団体（100 名程度）の受入を基本とし、特に最初のレクチャー、集合、雨天時の食事等の場所となる無料休憩空間については、100 名を収容できるスペースを確保する。
- 団体用トイレは施設外に別途設けることを検討する。

保存整備・公開活用Ⅰ案　全体を現状保存（内部公開しない）＋記念館相当施設を新規整備

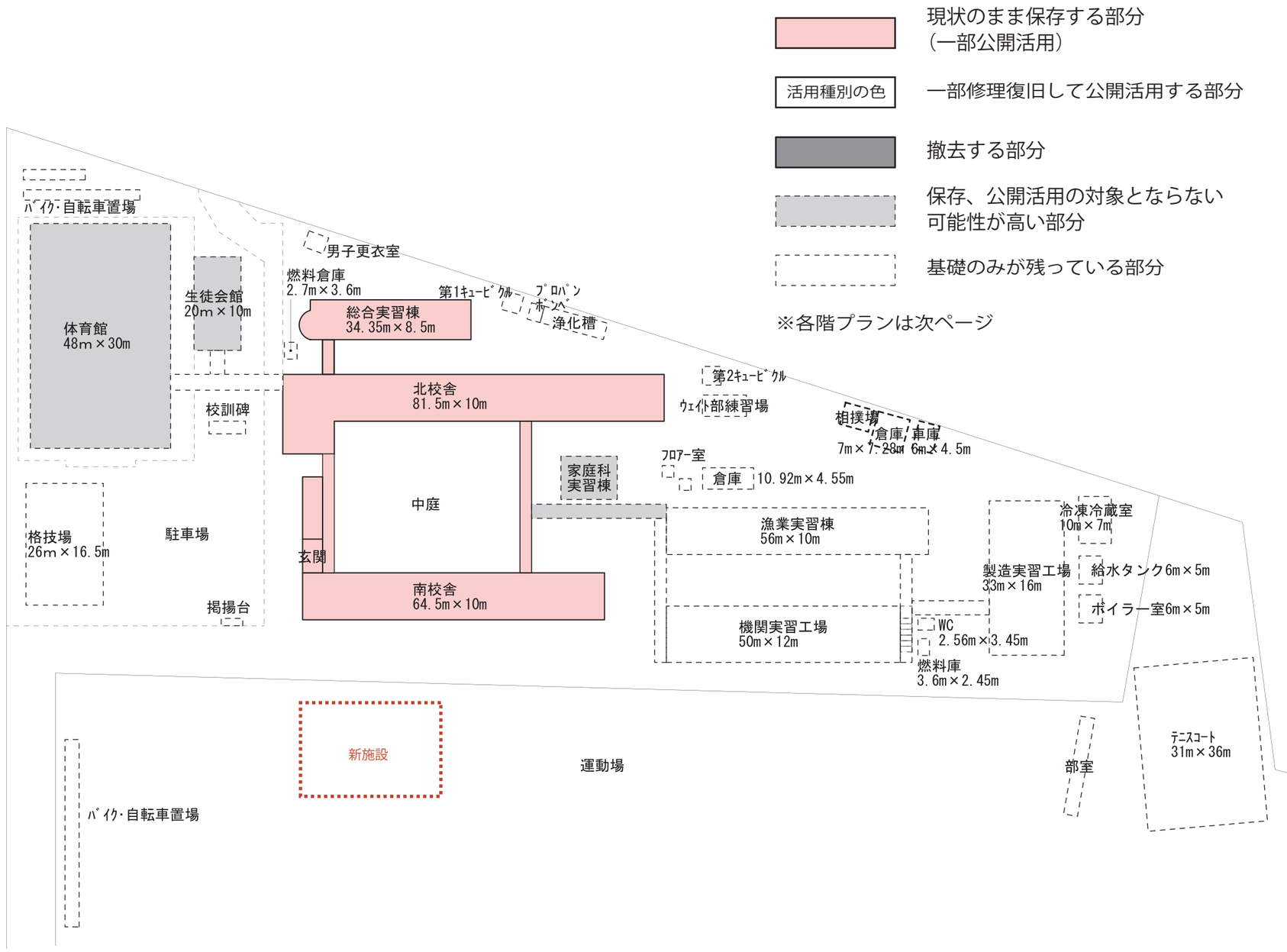
＜整備内容＞

□総合実習棟：現状のまま保存
□北校舎　　：現状のまま保存
□南校舎　　：現状のまま保存
□その他　　：記念館相当施設を新規整備

＜断面イメージ＞



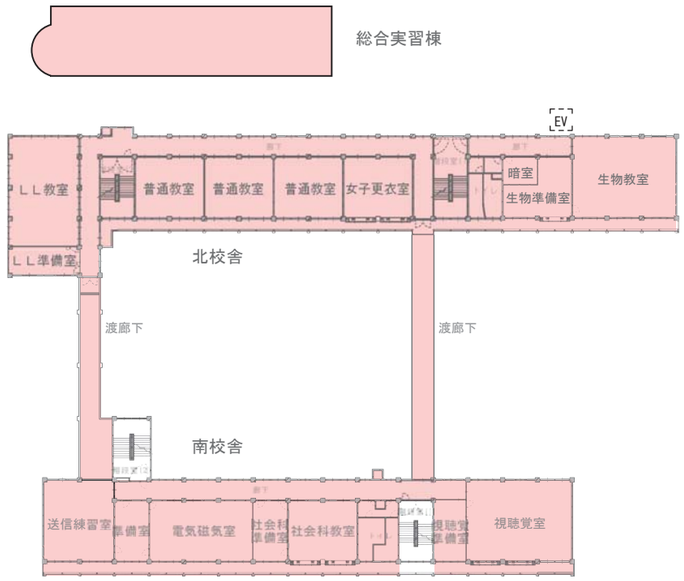
□南校舎	□北校舎	□総合実習棟
4 階：現状のまま保存	4 階：現状のまま保存	3 階：現状のまま保存
3 階：現状のまま保存	3 階：現状のまま保存	2 階：現状のまま保存
2 階：現状のまま保存	2 階：現状のまま保存	1 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存	1 階：現状のまま保存	



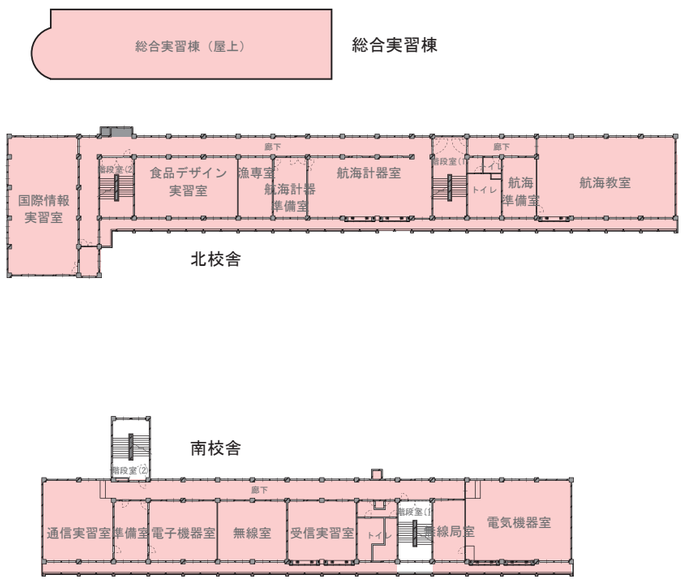
Ⅰ案　各階プラン

現状のまま保存　展示　普及　利用者サービス　交流　管理部門　その他

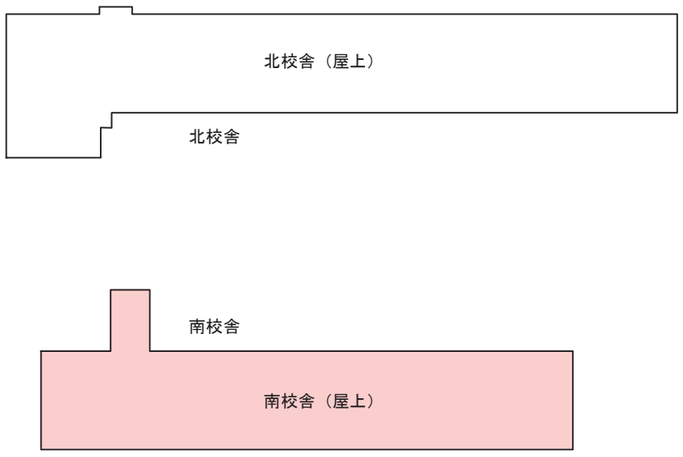
＜3 階平面図＞



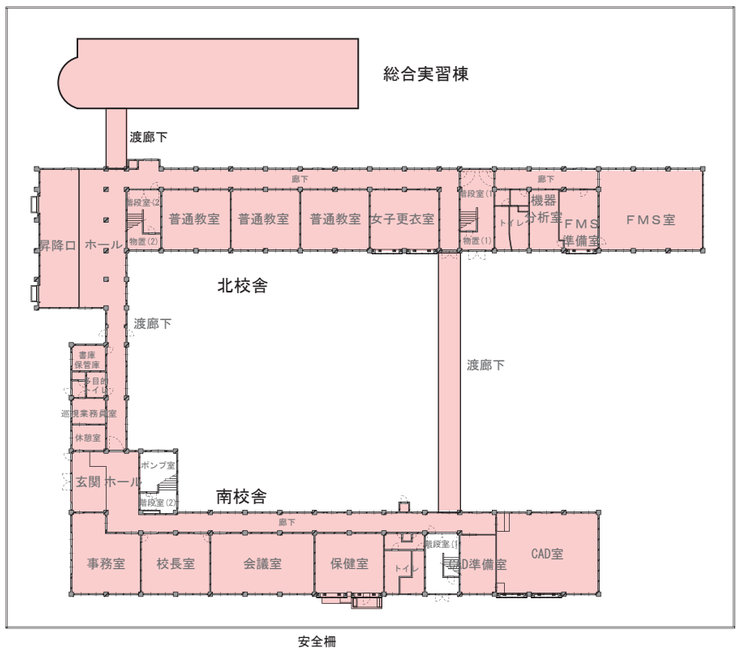
＜4 階平面図＞



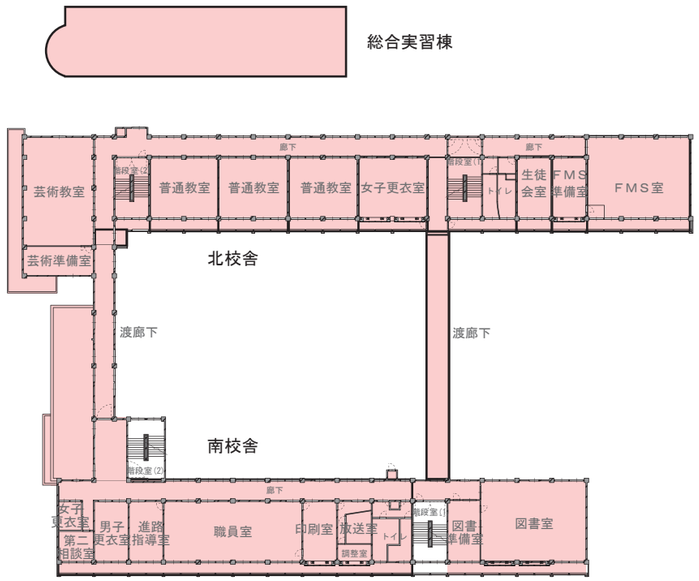
＜屋上階平面図＞



＜1 階平面図＞



＜2 階平面図＞



＜新施設＞　敷地内に新たな建物を建設する。

延床面積　1,100 ㎡程度

展示	200 ㎡程度	管理部門	150 ㎡程度
普及	300 ㎡程度	共用部等	250 ㎡程度
利用者サービス	200 ㎡程度		

Ⅱ案　南校舎に見学ルートを整備（内部公開する）　＋　北校舎上層階を記念館として活用　＋　総合実習棟１Ｆを活用

保存・公開エリア

【保存の考え方】

●南校舎を現状保存する。
→南校舎：現状保存。3、4 階、屋上のみを公開対象とし、1、2 階は閉鎖する。

●漂着物も一括して保存対象とする。校舎の開口部にネットをかけ、漂着物の飛散防止、鳥獣類の侵入防止を図る。

【公開の考え方】

●一部を公開する。

●南校舎、北校舎は３階に展示見学ルートを設ける。
→南校舎内部は特設の見学ルートを整備し、ルート外は立入禁止とする。
→南校舎 3 階廊下の両階段には､2 階への進入を監視するための安全対策を講ずる。

●南校舎４階一部にも見学ルートを設ける。
→4 階の「通信実習室」のみを公開対象とする。
→4 階の廊下に、他の閉鎖空間への進入を監視するための監視員配置等の安全対策を講ずる。

●南校舎屋上に見学用デッキを設ける。
→屋上入り口付近を中心に見学デッキを設け、ガイドの監視下での見学体制を整える。

活用エリア（北校舎、総合実習棟）

●北校舎の 3、4 階、総合実習棟の 1 階を活用エリアとする。
→延床面積約 2,600 ㎡。
→北校舎：3、4 階を展示・普及・事務管理等のスペースとする。1、2 階は内装、漂着物を撤去。
　　来館者用と資料等搬出入用のエレベーターを整備する。
→総合実習棟：1 階をレストラン・ショップのスペースとする。2、3 階は閉鎖する。

●主な施設利用イメージ
→①団体［修学旅行、小・中・高校団体］、②少人数グループ［視察、観光］、③個人
→主な滞在時間イメージ：館内（展示見学・ＷＳ等）30～90 分、遺構見学 20～45 分、休憩等 10～30 分　【1 時間～約 3 時間】

●想定する運営体制人員数
・館長（1 名）－総務・経理担当責任者（1 名）－総務・経理担当（１名）
　　－企画担当責任者（1 名）－企画（展示・普及等）担当（5 名）　※企画担当は学芸員を必ず含むものとする
　　－受付・案内担当（6 名）　※交代要員含む。パート。
　　－語り部　※状況に応じて配置人員数調整、有償ボランティア
※繁忙状況により、事業企画支援担当、業務推進支援担当等を配置する（※アルバイト・パート）。

●想定する事業活動及び必要諸室
→常設展示と特別展示を行う。
→現在、市が保管している漂着物の保存管理を行う。所有者が確認されたら返却を原則とする。
→記憶を風化させないためのイベントを毎年実施し（校庭、周辺もフィールドとする）、話題性創出につなげる。
→総合実習棟にてレストランとショップを展開する。ショップで地域特産品等の紹介を行うことも検討できる。(※テナントとする)

	展示	教育・普及	利用者サービス	事務・管理
事業活動	【常設展示　※展示替え有】 ①気仙沼市航空写真（床面） ②「3.11 の記憶・記録」 ③「その時私は、あなたは」 -防災･減災･避難- ④「気仙沼と津波、そして 3.11」 ⑤地震・津波の仕組み ⑥復興-海と生きる- 【特別展示】 ⑦（随時企画）	①遺構ガイドツアー ②語り部による「語り伝え」 ③防災･減災講座､研修会 ④地震研究成果発表ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ ⑤「忘れない」特別イベント →被災地ネットワーク企画展 →“海と生きる”気仙沼映画祭 →“避難の道”歩こう会　等	①団体受け入れ対応 ②飲食提供事業 ③物販事業 ④その他　等	①受付・券売・案内 ②事務管理 ③展示関連（企画･調整等） ④普及関連（企画･調整等） ⑤サービス関連（企画･調整等） ⑥漂着物保存管理 ⑦搬出入・備品等管理　等
	調査・研究			地域連携
	＊震災に関連する情報収集・研究あるいは研究機関との連携 ＊情報発信のあり方等に関する研究　等			＊地域との連携活動の企画･調整等
必要諸室	①～⑥：常設展示室 ⑦：特別展示室 ①～⑦：前室　等 ［部門別面積：約 400 ㎡想定］	①～②：担当待機スペース ③～④：多目的室、多目的ホール ⑤：多目的ホール　等 ＊研究支援オフィス ［部門別面積：約 300 ㎡想定］	①:無料休憩空間(団体収容想定) ②：レストラン・カフェ ③：ショップ ④：トイレ、ロッカー　等 ［部門別面積：約 400 ㎡想定］	①：受付カウンター ②：事務室 ②～⑤:ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ(兼応接室) ⑥：「記憶預かり所」 ⑦：搬出入ｴﾘｱ・倉庫等 ［部門別面積：約 700 ㎡想定］

整備

●南校舎の閉鎖空間に接する一般公開動線が生じるため、進入監視体制が必要。

●安全対策は毎年確認・検討し、状況に合わせた適切な管理計画に基づいて行う。

備考

●防災教育施設として、研究に基づく展示、普及活動を展開するため、展示・普及担当は学芸員であることが望ましい。
●Ｉの展開案よりも活動空間が大きくなるため、事業企画力が求められることから、担当者及び繁忙時の支援者等、運営体制の強化が求められる。
●団体（100 名程度）の受入を基本とし、特に最初のレクチャー、集合、雨天時の食事等の場所となる無料休憩空間については、100 名を収容できるスペースを確保する。

保存整備・公開活用Ⅱ案　南校舎に見学ルートを整備（内部公開する）＋北校舎上層階を記念館として活用＋総合実習棟 1 階を活用

現状のまま保存する部分
（一部公開活用）

活用種別の色　一部修理復旧して公開活用する部分

撤去する部分

保存、公開活用の対象とならない
可能性が高い部分

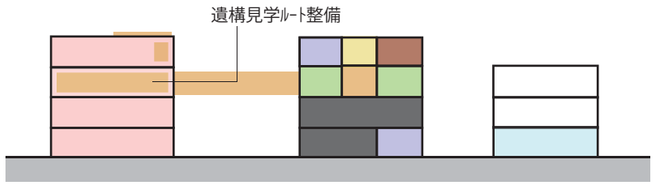
基礎のみが残っている部分

※各階プランは次ページ

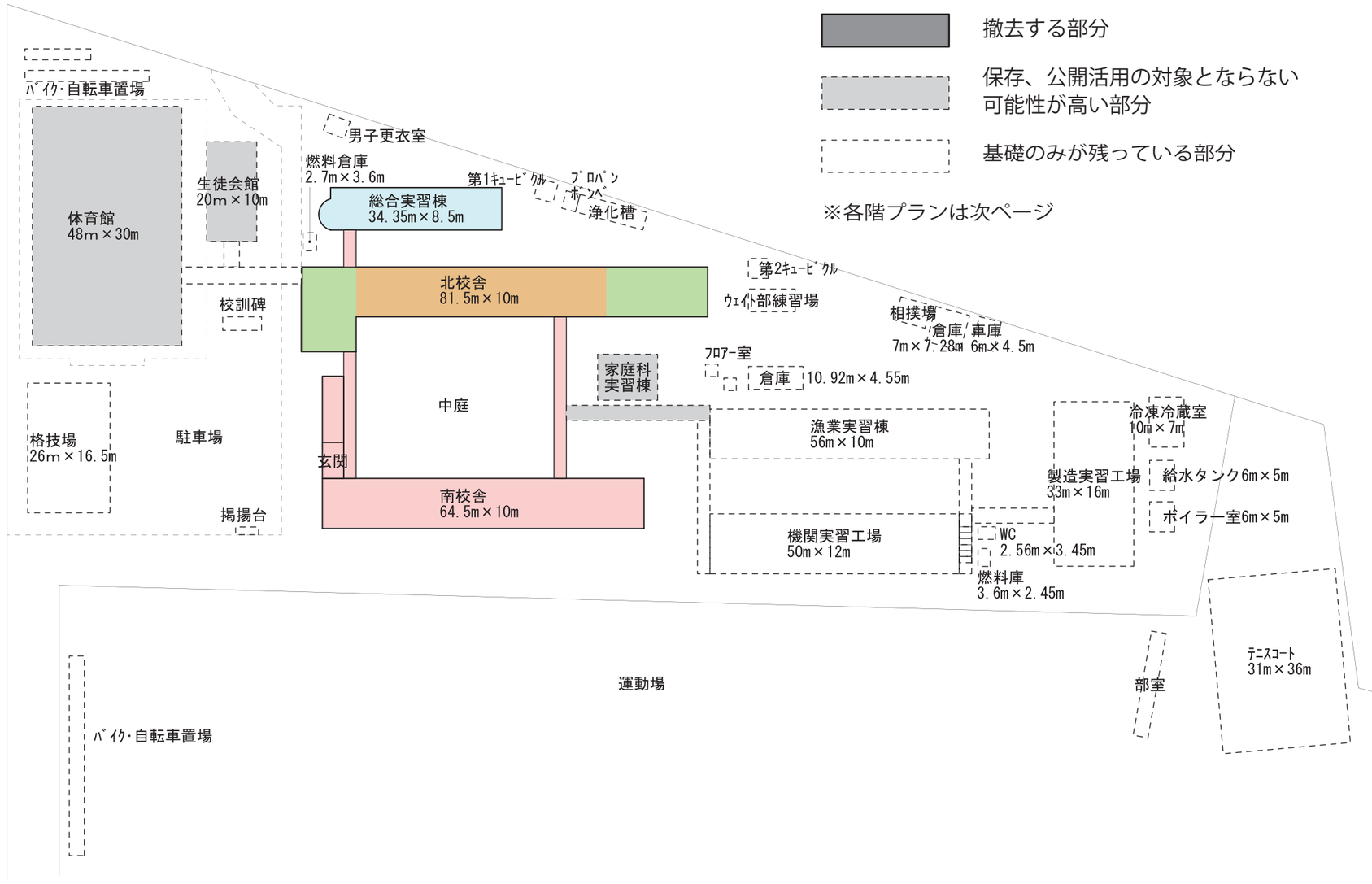
＜整備内容＞

□総合実習棟：1 階を修理復旧して公開活用
　　3 ～ 4 階は閉鎖管理
□北校舎　　：1 ～ 2 階は内装撤去でスケルトン化
　　3 ～ 4 階を修理復旧して公開活用
□南校舎　　：1 ～ 2 階、4 階は現状のまま保存
　　3 階、4 階の一部及び屋上に見学ルート
　　を整備して公開活用

＜断面イメージ＞



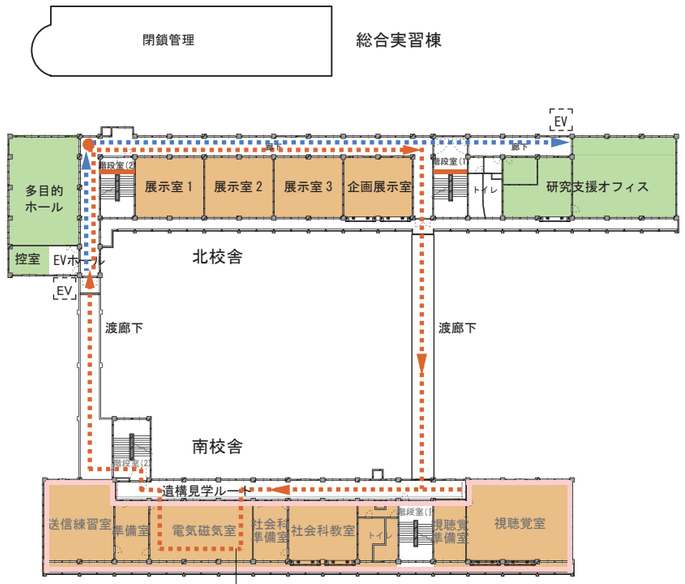
□南校舎	□北校舎	□総合実習棟
4 階：公開活用（一部）	4 階：公開活用	3 階：閉鎖管理
3 階：公開活用	3 階：公開活用	2 階：閉鎖管理
2 階：現状のまま保存	2 階：ｽｹﾙﾄﾝ化	1 階：公開活用
1 階：現状のまま保存	1 階：ｽｹﾙﾄﾝ化	



Ⅱ案　各階プラン

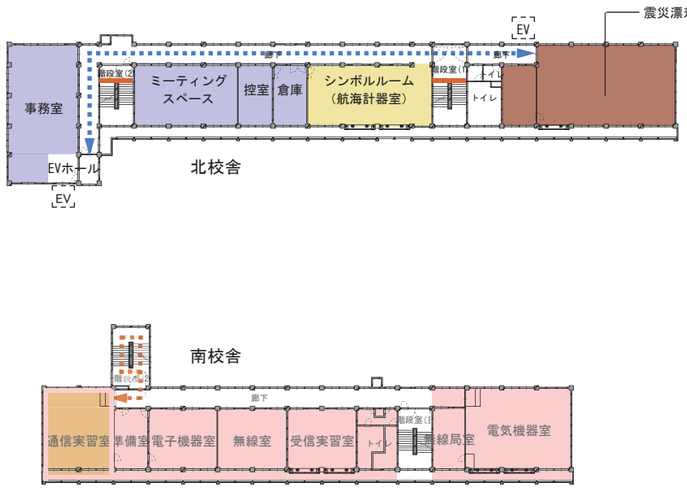
現状のまま保存　展示　普及　利用者サービス　交流　管理部門　その他　有料動線　無料動線　結界

＜3 階平面図＞

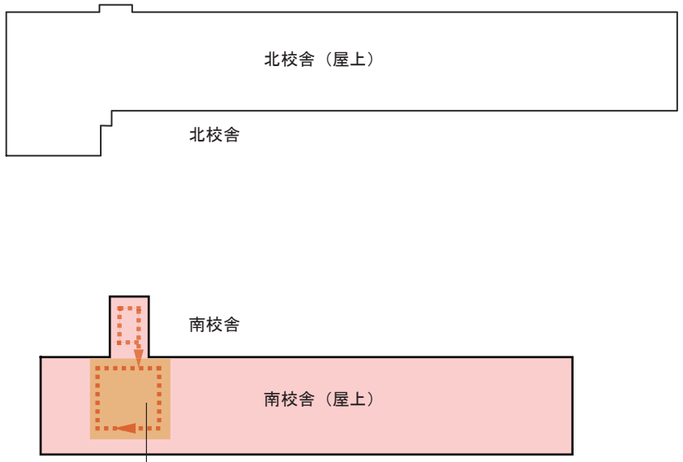


見学時の安全確保のため、
見学用ルートの整備を行う。

＜4 階平面図＞

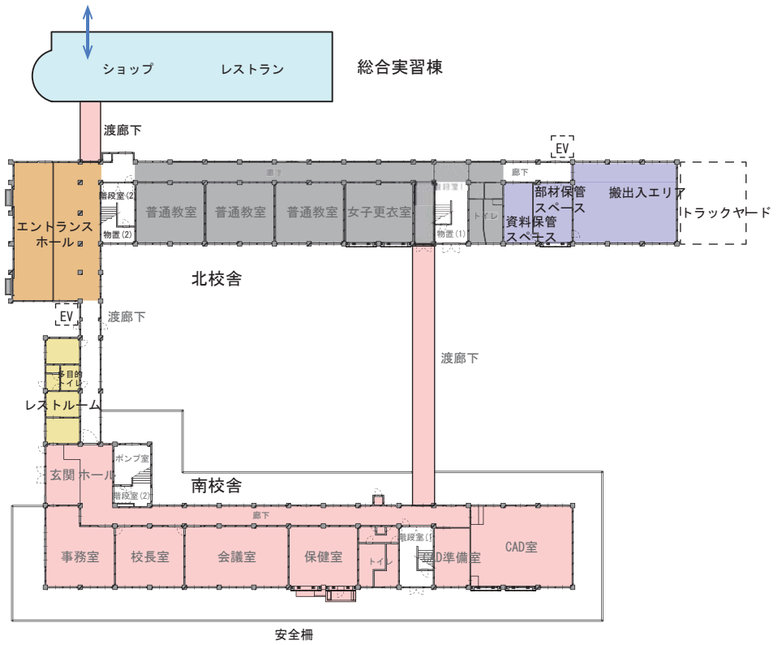


＜屋上階平面図＞

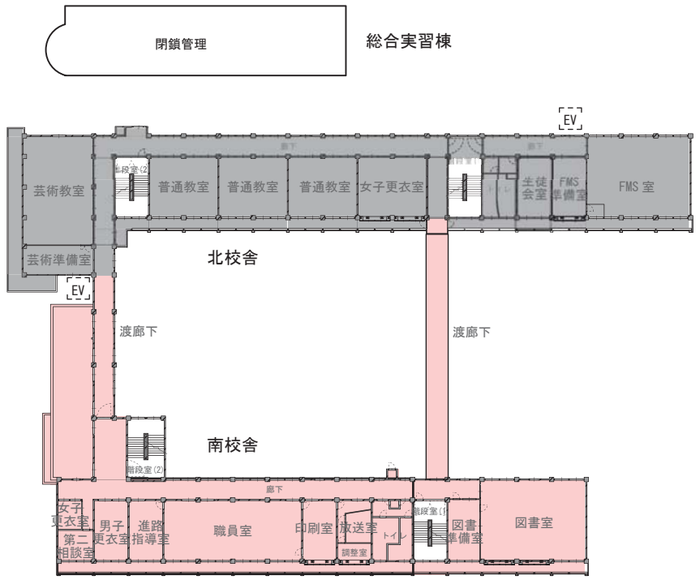


周辺の状況を展望できるよう、見学エリア
としてデッキ等を整備する。

＜1 階平面図＞



＜2 階平面図＞



Ⅲ－ａ案　全体を現状保存（内部公開する）　＋　記念館相当施設を新規整備

保存・公開エリア

【保存の考え方】

●南校舎、北校舎、総合実習棟を現状保存する。

●漂着物も一括して保存対象とする。

●保存対象の校舎の開口部にネットをかけ、漂着物の飛散防止、鳥獣類の侵入防止を図る。

【公開の考え方】

●南校舎にはエレベーター新設、既存階段の再利用等を検討し、３階・４階及び屋上への独自の公開見学動線を確保する。
→エレベーター及び校舎内の既存階段の再整備等に関しては、いずれも法規上の十分な確認・調整を前提とする。
→南校舎 3F、4F の見学対象面積（見学が可能となる面積）：約 900 ㎡
（※見学通路そのものの規模ではない）

●南校舎屋上に見学用デッキを設ける。
→屋上入り口付近を中心に見学デッキを設け、安全性確保を行う。
→屋上の見学デッキの想定規模：約 100 ㎡

活用エリア（新規施設）

●旧プロムナードの代替として、新規に活用のための施設を整備する。
→復興予算対応規模は、延床面積約 1,100 ㎡。

●主な施設利用イメージ
→①団体［修学旅行、小・中・高校団体］、②少人数グループ［視察、観光］、③個人
→主な滞在時間イメージ：館内（展示見学・ＷＳ等）15～60 分、遺構見学 45～60 分、休憩等 10～30 分　【70 分～2 時間 30 分】

●想定する運営体制人員数
→館長（1 名）　－総務・経理担当責任者（1 名）－総務・経理担当（１名）
－企画担当責任者（1 名）－企画（展示・普及等）担当（3 名）　※企画担当は学芸員を必ず含むものとする
－受付・案内担当（6～7 名）　※配置箇所 2 カ所（記念館／校舎エントランス）。パート等を検討
－語り部　※状況に応じて配置人員数調整、有償ボランティア
※繁忙状況により、事業企画支援担当、業務推進支援担当等を配置する（※アルバイト・パート）。

●想定する事業活動及び必要諸室
→当初想定の諸機能のうち、「展示」「普及」に注力し、防災・減災教育拠点としての機能性を高める。
→常設展示の展示替え、コーナーとしての企画展示は行うが、特別展は行わない。
→展示は可変性、更新性を重視する。
→現在、保管されている漂着物そのものを公開展示する（漂着物保管事業を展示する）。所有者が確認されたら返却を原則とする。
→記憶を風化させないためのイベントを毎年実施し（校庭、周辺もフィールドとする）、話題性創出につなげる。
→施設規模上、レストラン・カフェは（20～30 席程度）、ショップはコーナーでの展開とする（※テナントとする）。

	展示	教育・普及	利用者サービス	事務・管理
事業活動	【常設展示　※展示替え有】 ①気仙沼市航空写真（床面） ②「記憶預かり所」 -漂着物公開展示- ③「その時私は、あなたは」 -防災･減災･避難- ④「気仙沼と津波、そして 3.11」 ⑤「復興-海と生きる-」	①遺構ガイドツアー ②語り部による「語り伝え」 ③防災･減災講座､研修会 ④地震研究成果発表ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ ⑤「忘れない」特別イベント →被災地ネットワーク企画 →“海と生きる”気仙沼映画祭 →“避難の道”歩こう会　等	①団体受け入れ対応 ②飲食提供事業 ③物販事業 ④その他　等	①受付・券売・案内 ②事務管理 ③展示関連（企画･調整等） ④普及関連（企画･調整等） ⑤サービス関連（企画･調整等） ⑥搬出入・備品等管理　等
	調査・研究			地域連携
	＊震災に関連する情報収集・研究あるいは研究機関との連携 ＊情報発信のあり方等に関する研究　等			＊地域との連携活動の企画･調整　等
必要諸室	①～⑤： 展示室、前室　等 ［部門別面積：約 200 ㎡想定］	①～②：担当待機スペース ③～⑤：多目的スペース ＊研究支援オフィス ［部門別面積：約 300 ㎡想定］	①:無料休憩空間（団体収容想定） →約 100 ㎡ ②：レストラン・カフェ ③：ショップコーナー ④：トイレ、ロッカー　等 ［部門別面積：約 200 ㎡想定］	①：受付カウンター ②：事務室、 ②～⑤:ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ（兼応接室） ⑥：搬出入ｴﾘｱ・倉庫等 ［部門別面積：約 150 ㎡想定］

整備

●南校舎の閉鎖空間である１Ｆ、２Ｆへの進入監視体制が必要。

●南校舎（公開）と北校舎、総合実習棟（閉鎖）それぞれにフェンス等による結界が必要。

●安全対策は毎年確認・検討し、状況に合わせた適切な管理計画に基づいて行う。

備考

●防災・減災教育施設として、研究に基づく展示、普及活動を展開するため、展示・普及担当は学芸員であることが望ましい。

●団体（100 名程度）の受入を基本とし、特に最初のレクチャー、集合、雨天時の食事等の場所となる無料休憩空間については、100 名を収容できるスペースを確保する。

●団体用トイレは施設外に別途設けることを検討する。

●南校舎の進入動線上（エントランス等）に入館者受付対応（モギリ）の人員を要する。

保存整備・公開活用Ⅲ-a 案　全体を現状保存（内部公開する）＋記念館相当施設を新規整備

現状のまま保存する部分
（一部公開活用）

活用種別の色　一部修理復旧して公開活用する部分

撤去する部分

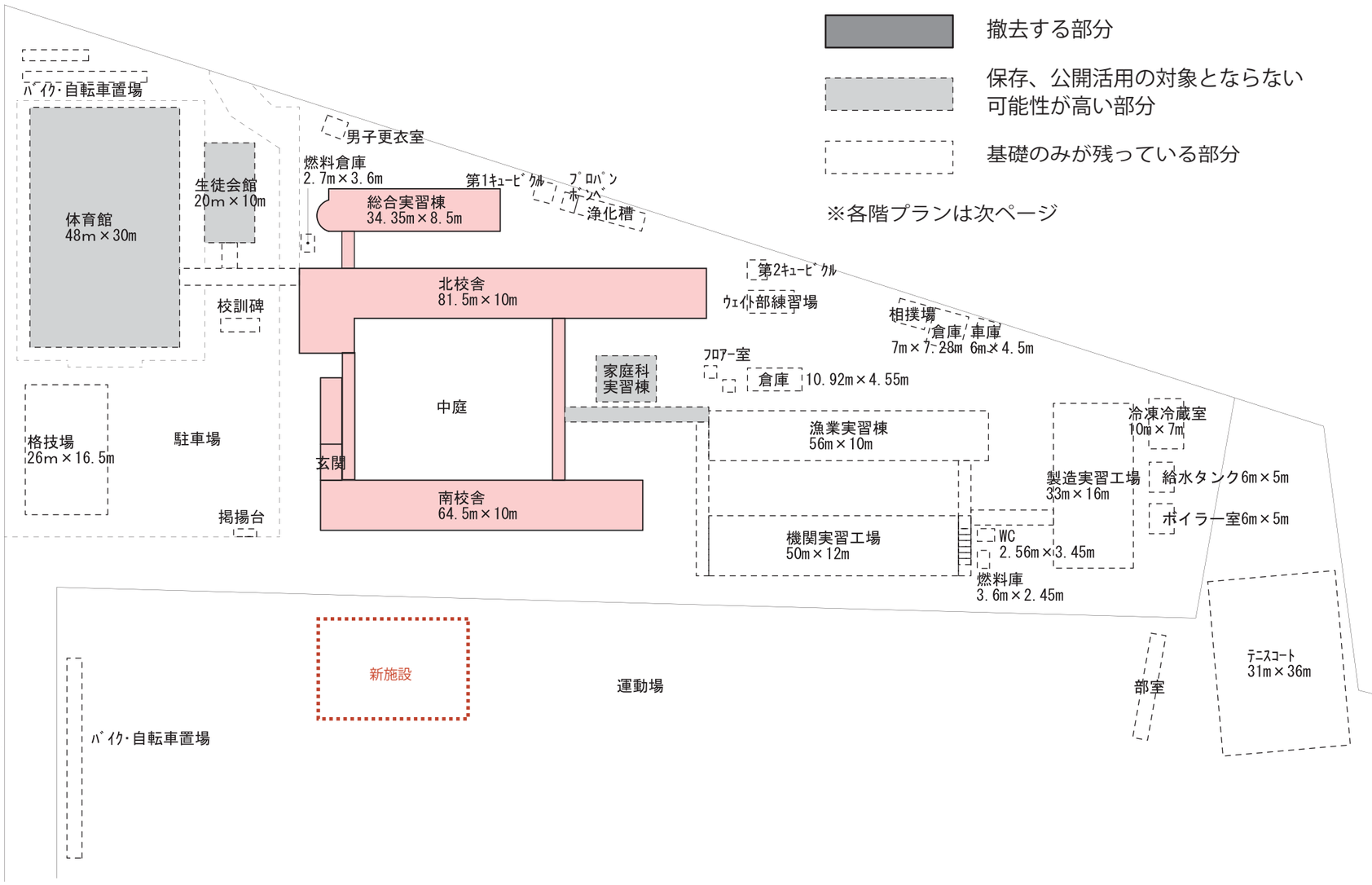
保存、公開活用の対象とならない
可能性が高い部分

基礎のみが残っている部分

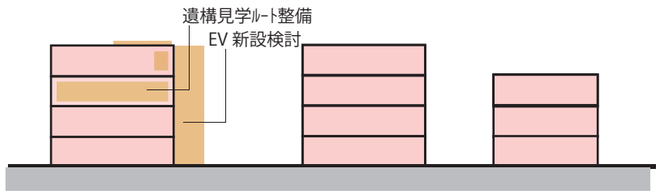
※各階プランは次ページ

＜整備内容＞

□総合実習棟：現状のまま保存
□北校舎　　：現状のまま保存
□南校舎　　：1～2 階、4 階は現状のまま保存
　　3 階、4 階の一部及び屋上に見学ルート
　　を整備して公開活用
□その他　　：記念館相当施設を新規整備



＜断面イメージ＞

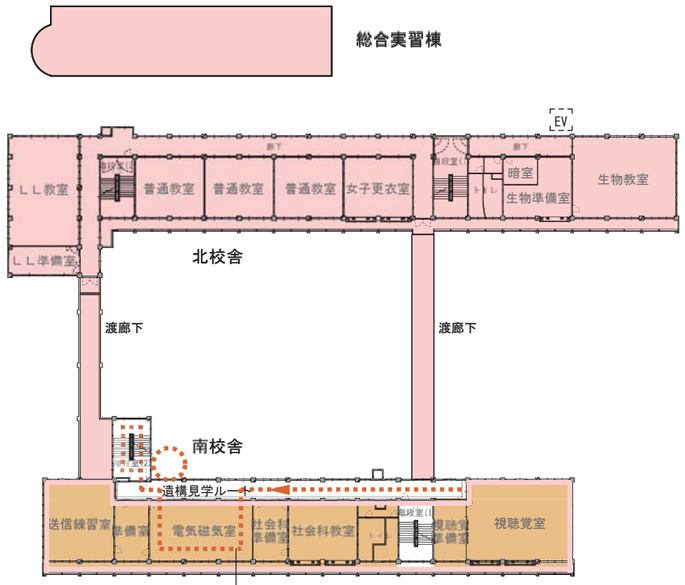


□南校舎	□北校舎	□総合実習棟
4 階：公開活用（一部）	4 階：現状のまま保存	3 階：現状のまま保存
3 階：公開活用	3 階：現状のまま保存	2 階：現状のまま保存
2 階：現状のまま保存	2 階：現状のまま保存	1 階：現状のまま保存
1 階：現状のまま保存	1 階：現状のまま保存	

Ⅲ-a 案　各階プラン

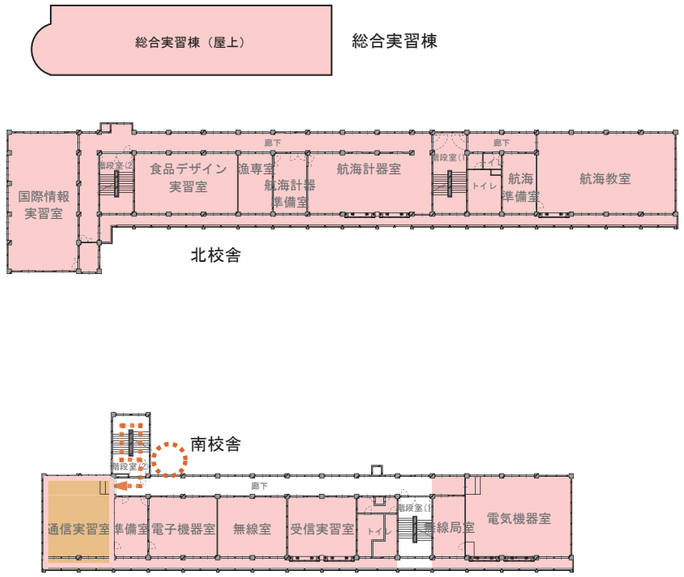
現状のまま保存　展示　普及　利用者サービス　交流　管理部門　その他　有料動線　無料動線　結界

＜3 階平面図＞

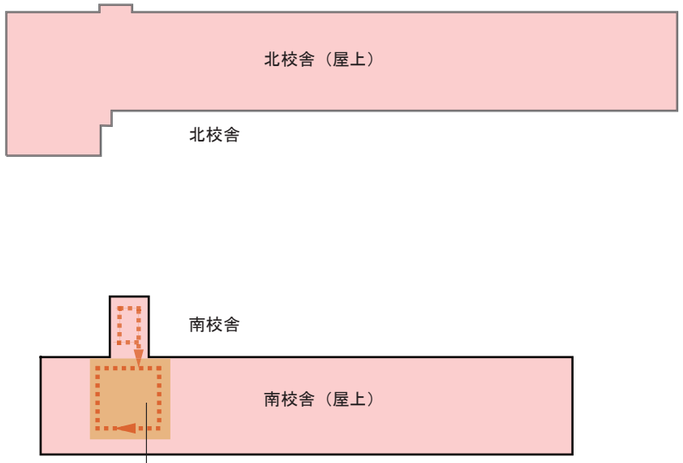


見学時の安全確保のため、
見学用ルートの整備を行う。

＜4 階平面図＞

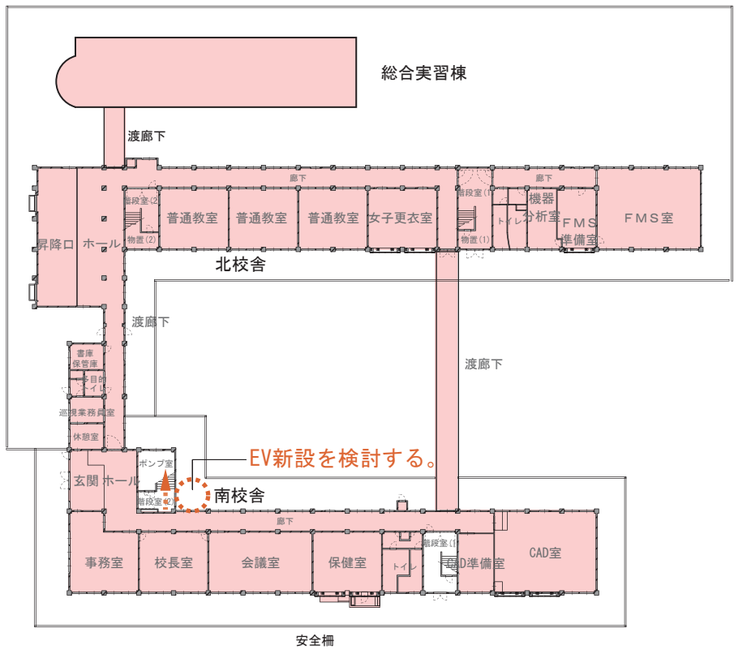


＜屋上階平面図＞

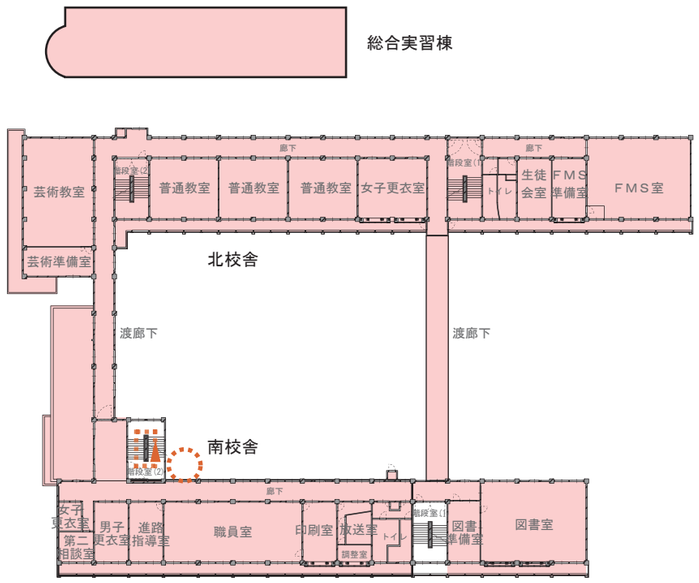


周辺の状況を展望できるよう、見学エリア
としてデッキ等を整備する。

＜1 階平面図＞



＜2 階平面図＞



＜新施設＞

敷地内に新たな建物を建設する。

延床面積　1,100 ㎡程度

展示	200 ㎡程度	管理部門	150 ㎡程度
普及	300 ㎡程度	共用部等	250 ㎡程度
利用者サービス	200 ㎡程度		

Ⅲ－ｂ案　南校舎のみ現状保存（内部公開する）　＋　記念館相当施設を新規整備

保存・公開エリア

【保存の考え方】

●南校舎を現状保存する。
→南校舎：現状保存。3、4 階、屋上のみを公開対象とし、1、2 階は閉鎖する。
→北校舎、総合実習棟は撤去する。

●漂着物も一括して保存対象とする。

●保存対象の校舎の開口部にネットをかけ、漂着物の飛散防止、鳥獣類の侵入防止を図る。

【公開の考え方】

●南校舎にはエレベーター新設、既存階段の再利用等を検討し、３階・４階及び屋上への独自の公開見学動線を確保する。
→エレベーター及び校舎内の既存階段の再整備等に関しては、いずれも法規上の十分な確認・調整を前提とする。
→南校舎 3F、4F の見学対象面積（見学が可能となる面積）：約 900 ㎡
（※見学通路そのものの規模ではない）

●南校舎屋上に見学用デッキを設ける。
→屋上入り口付近を中心に見学デッキを設け、安全性確保を行う。
→屋上の見学デッキの想定規模：約 100 ㎡

活用エリア（新規施設）

●旧プロムナードの代替として、新規に活用のための施設を整備する。
→復興予算対応規模は、延床面積約 1,100 ㎡。

●主な施設利用イメージ
→①団体［修学旅行、小・中・高校団体］、②少人数グループ［視察、観光］、③個人
→主な滞在時間イメージ：館内（展示見学・ＷＳ等）15～60 分、遺構見学 45～60 分、休憩等 10～30 分　【70 分～2 時間 30 分】

●想定する運営体制人員数
→館長（1 名）　－総務・経理担当責任者（1 名）－総務・経理担当（１名）
－企画担当責任者（1 名）－企画（展示・普及等）担当（3 名）　※企画担当は学芸員を必ず含むものとする
－受付・案内担当（6～7 名）　※配置箇所 2 カ所（記念館／校舎エントランス）。パート等を検討
－語り部　※状況に応じて配置人員数調整、有償ボランティア
※繁忙状況により、事業企画支援担当、業務推進支援担当等を配置する（※アルバイト・パート）。

●想定する事業活動及び必要諸室
→当初想定の諸機能のうち、「展示」「普及」に注力し、防災・減災教育拠点としての機能性を高める。
→常設展示の展示替え、コーナーとしての企画展示は行うが、特別展は行わない。
→展示は可変性、更新性を重視する。
→現在、保管されている漂着物そのものを公開展示する（漂着物保管事業を展示する）。所有者が確認されたら返却を原則とする。
→記憶を風化させないためのイベントを毎年実施し（校庭、周辺もフィールドとする）、話題性創出につなげる。
→施設規模上、レストラン・カフェは（20～30 席程度）、ショップはコーナーでの展開とする（※テナントとする）。

	展示	教育・普及	利用者サービス	事務・管理
事業活動	【常設展示　※展示替え有】 ①気仙沼市航空写真（床面） ②「記憶預かり所」 -漂着物公開展示- ③「その時私は、あなたは」 -防災･減災･避難- ④「気仙沼と津波、そして 3.11」 ⑤「復興-海と生きる-」	①遺構ガイドツアー ②語り部による「語り伝え」 ③防災･減災講座､研修会 ④地震研究成果発表ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ ⑤「忘れない」特別イベント →被災地ネットワーク企画 →“海と生きる”気仙沼映画祭 →“避難の道”歩こう会　等	①団体受け入れ対応 ②飲食提供事業 ③物販事業 ④その他　等	①受付・券売・案内 ②事務管理 ③展示関連（企画･調整等） ④普及関連（企画･調整等） ⑤サービス関連（企画･調整等） ⑥搬出入・備品等管理　等
	調査・研究			地域連携
	＊震災に関連する情報収集・研究あるいは研究機関との連携 ＊情報発信のあり方等に関する研究　等			＊地域との連携活動の企画･調整　等
必要諸室	①～⑤： 展示室、前室　等 ［部門別面積：約 200 ㎡想定］	①～②：担当待機スペース ③～⑤：多目的スペース ＊研究支援オフィス ［部門別面積：約 300 ㎡想定］	①:無料休憩空間（団体収容想定） →約 100 ㎡ ②：レストラン・カフェ ③：ショップコーナー ④：トイレ、ロッカー　等 ［部門別面積：約 200 ㎡想定］	①：受付カウンター ②：事務室、 ②～⑤:ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ（兼応接室） ⑥：搬出入ｴﾘｱ・倉庫等 ［部門別面積：約 150 ㎡想定］

備考

●南校舎の閉鎖空間である１Ｆ、２Ｆへの進入監視体制が必要。

●安全対策は毎年確認・検討し、状況に合わせた適切な管理計画に基づいて行う。

●防災・減災教育施設として、研究に基づく展示、普及活動を展開するため、展示・普及担当は学芸員であることが望ましい。

●団体（100 名程度）の受入を基本とし、特に最初のレクチャー、集合、雨天時の食事等の場所となる無料休憩空間については、100 名を収容できるスペースを確保する。

●団体用トイレは施設外に別途設けることを検討する。

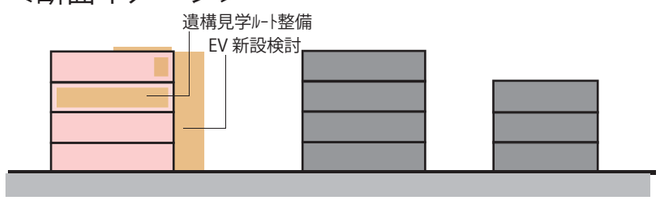
●南校舎の進入動線上（エントランス等）に入館者受付対応（モギリ）の人員を要する。

保存整備・公開活用Ⅲ-ｂ案　南校舎のみ現状保存（内部公開する）＋記念館相当施設を新規整備

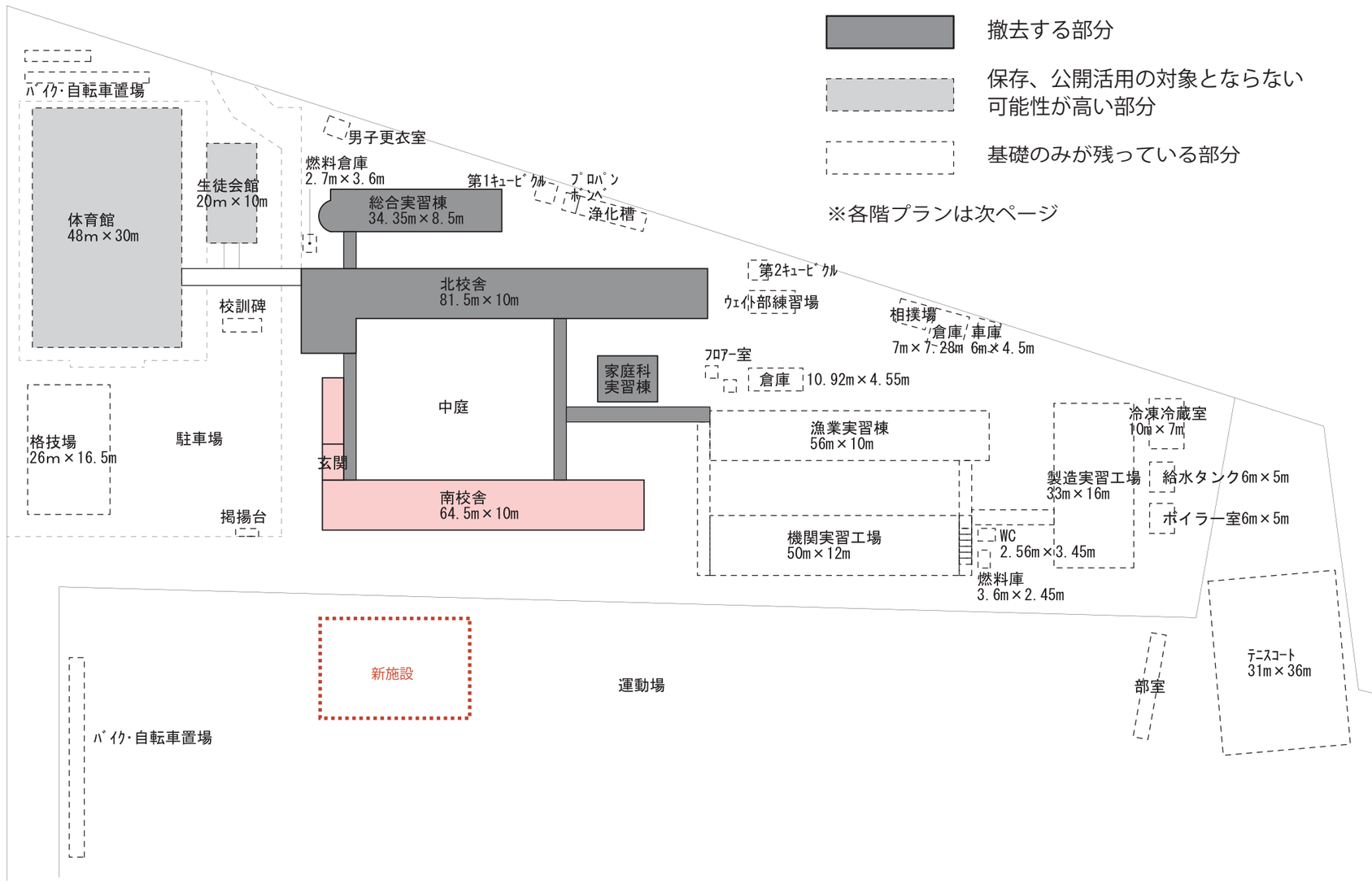
＜整備内容＞

□総合実習棟：撤去
□北校舎　　：撤去
□南校舎　　：1～2階、4階は現状のまま保存
　　3階、4階の一部及び屋上に見学ルートを整備して公開活用
□その他　　：記念館相当施設を新規整備

＜断面イメージ＞



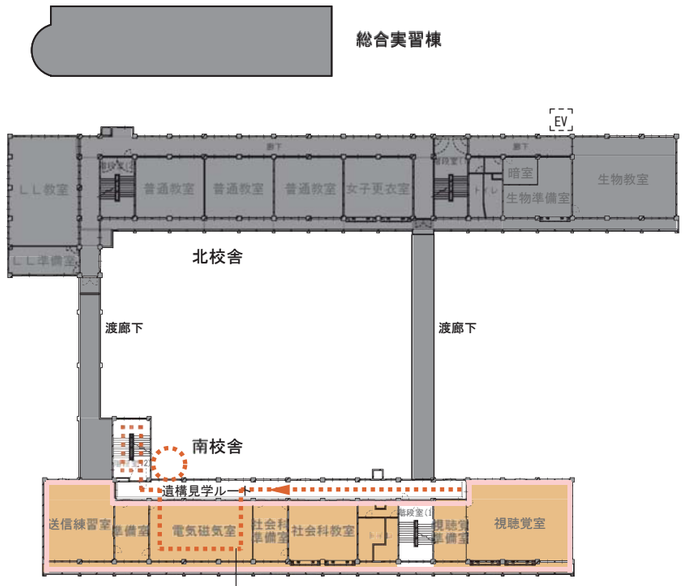
□南校舎	□北校舎	□総合実習棟
4階：公開活用（一部）	4階：撤去	3階：撤去
3階：公開活用	3階：撤去	2階：撤去
2階：現状のまま保存	2階：撤去	1階：撤去
1階：現状のまま保存	1階：撤去	



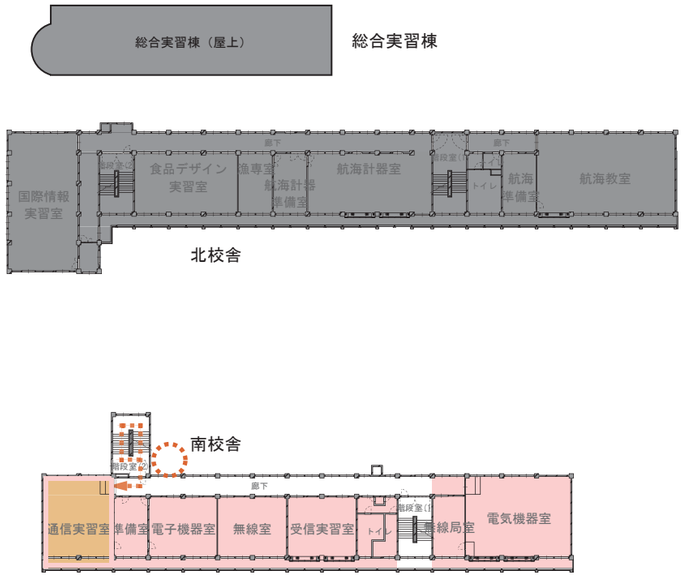
Ⅲ-ｂ案　各階プラン

現状のまま保存　展示　普及　利用者サービス　交流　管理部門　その他　有料動線　無料動線　結界

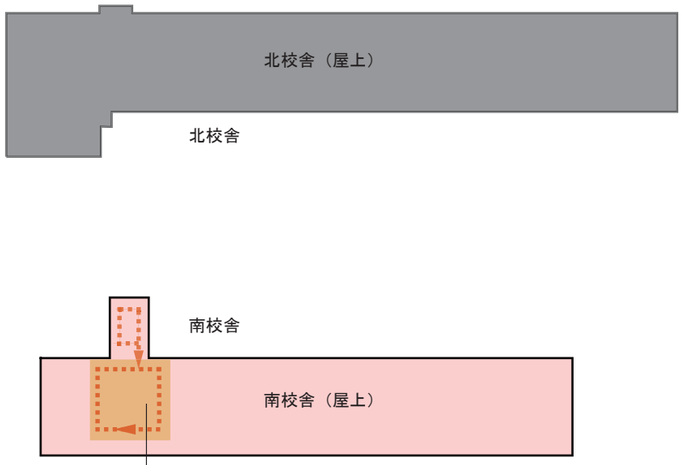
＜3 階平面図＞



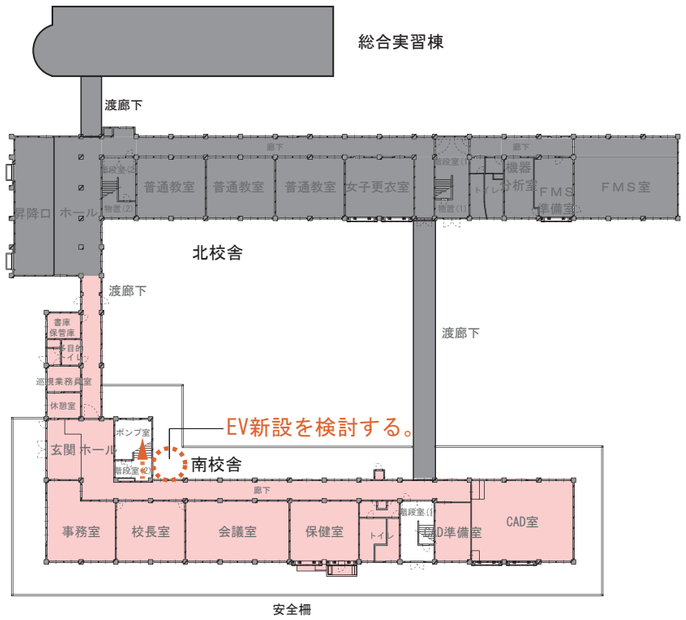
＜4 階平面図＞



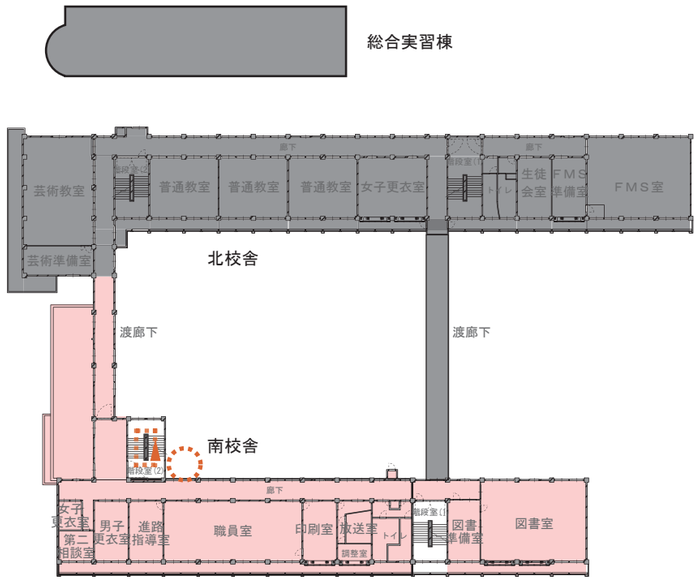
＜屋上階平面図＞



＜1 階平面図＞



＜2 階平面図＞



＜新施設＞

敷地内に新たな建物を建設する。

延床面積　1,100 ㎡程度

展示	200 ㎡程度	管理部門	150 ㎡程度
普及	300 ㎡程度	共用部等	250 ㎡程度
利用者サービス	200 ㎡程度		